

ROTARY INTERNATIONAL 2720



# 玉名ロータリークラブ週報

2018  
2019



インスピレーションになるう

R I 会長	■	バ	リ	・	ラ	シ	ン
地区ガバナー	■	高	山	泰	四	郎	
会長	■	本	田	正	美		
幹事	■	田	中	雄	三	郎	
公共イメージ向上・IT委員長	■	西	嶋	興	生		

例会日 ■ 毎週木曜日 / PM12:30~13:30

例会場 ■ 〒865-0061 熊本県玉名市立願寺 50-1 司ロイヤルホテル内  
TEL(0968)73-8888 FAX(0968)73-8008

事務所 ■ 〒865-0061 熊本県玉名市立願寺 540-1-102  
TEL(0968)73-3399 FAX(0968)74-3939

平成 30 年 8 月 23 日 No.2400

玉名RCメールアドレス [jimu@tamanarc.org](mailto:jimu@tamanarc.org)

ホームページ <http://www.tamanarc.org/>

## 【会長の時間】 本田会長

皆さんこんにちは。まだまだ猛暑が続く中今週は、台風19号通過し玉名での被害は無かったようです。しかし、通過したところは、かなりの被害が出た模様です。被災地の皆様方に心からお見舞い申し上げます。20号が接近して来る模様なので北風が強くなると思われます。気を付けてください。

ここ最近朝晩が涼しく感じました。気温の変化が激しくなって健康管理、体調管理には十分注意してください。と言いながら私も今週初めに体調を崩してしまい誠に申し訳ありません。



さて新年度に入って、早や2か月が過ぎようとしているところです。クラブの運営も本格的に動き始めたと思います。本年度1つ目の事業の玉名 de 就活の件で、今週の月曜日玉名市商工会議所のほうで私と渡辺会員でうで打ち合わせに出席してきました。渡邊さんありがとうございました。会議の中少し時間が少ないのと、会社の募集など課題が山積している模様なので職業奉仕委員長と社会委員長と協議しながら頑張ってください。

又、地区の高山ガバナーからの目標の1つが今年度は各クラブ純増1名以上、特に女性会員の増強を目標として有りますので宜しくお願い致します。そして、2,500名台突破に再び挑戦しましょう。との事ですので山田会委員お世話になります。

## 【幹事報告】 堀本副幹事

○熊本グリーン RC より例会変更が来ています。

日時：8月27日（月）12：30～

場所：熊本ホテルキャスル

○熊本東 RC より、例会変更が来ています。

日時：8月31日（金）12：30～

場所：熊本ホテルキャスル地階「クリスタルホール」

○熊本中央 RC 例会取り止めのお知らせが来ています。

日時：9月21日（金）12：30～定款第8条第1節に基づき取り止めです。

○荒尾 RC 例会変更が来ています。

日時：9月5日（水）⇒8日（土）変更

創立40周年記念式典 例会13：00～ 式典16：00～ 祝賀会18：30～ 場所ホテルヴェルデ

○玉名市青少年育成市民会議より、平成30年度玉名市青少年育成市民会議賛助金の納入についてご協力とお願い。賛助金の納入一口10,000円を致します。

○公益財団法人 米山梅吉記念館より秋季例祭が来ています。

日時：9月15日（土）14：00～ 場所：米山梅吉記念館 ホール

○玉名遺産を活かす会より、「日本赤十字社発祥ゆかりの他」のPR看板設置へご理解とご賛同についてが来ています。



## 【委員会報告】

◎公共イメージ・IT委員会 鶴田副委員長

先々週の藏原市長様の卓話ですが、週報に掲載する前に秘書課の方で卓話内容を精査させていただきたいということでした。よって週報が遅れることをご報告いたします。よろしく申し上げます。

## 【出席スマイル報告】 大石委員長

本田会長・堀本副幹事・・・西田会員の私の履歴書、  
ありがとうございます。

吉岡さん・山田司さん・松崎さん・吉田彰さん・  
鶴田さん・深見さん・小山さん・坂梨さん・福田さん・  
浜田さん・・・西田会員の私の履歴書は持ち時間30分  
ありますのでがんばって下さい。

田原さん・・・22日初孫が生まれました。とても嬉しいです。  
男の子で3496グラムありました。



小篠さん・松本さん・・・西田典正支店長卓話ありがとうございます。

吉永さん・・・用事の為早退そます。

古賀さん・・・申し訳ありません早退します。

前回までの累計	¥204, 000
今 回	¥ 21, 000
合 計	¥225, 000

### 【出席報告】大石委員長

本日の出席	会員数	50 (46) 名	欠席者	井上 古賀 村田 前田 野田 中嶋 西嶋 志賀 杉谷 田中 瀧川 上村 上田継 渡邊太 山村 吉田光
	出席数	30 名		
	出席率	65.22%		
前回の出席	前回出席数	35 名	前回のメイクアップ	田中
	修正出席数	36 名		
	修正出席率	78.26%		
出席規定適用免除者		7 名		

### 【本日のプログラム】西田会員 私の履歴書

肥後銀行玉名支店の西田です。今年4月大分支店長より転任して5か月が過ぎようとしております。まさか私の履歴書なるものを話すことになるとは思っていませんでした。

私は昭和42年1月29日、上益城郡矢部町浜町、市町村合併で現在は山都町浜町に生まれました。山都町の名産はお茶や米など農産物で、史跡としてはご存知の方も多いと思いますが通潤橋がごございます。郷土の有名人としてはロサンゼルスオリンピック金メダリストで現在 IOC 理事の山下泰裕がいます。先般のアジア大会でのバスケットボー



ル選手の不幸事においては記者会見でお詫びをされていました。ちなみに金メダルを取られた時は母校である浜町小学校に凱旋され、町内パレードがあったりして私も影響を受けまして小学校3年生までは柔道をやっていましたが、大変弱く、赤帯のまま少年野球に転じました。

両親のことに触れておきますと、父は地元の浜町中学を卒業し、濟々巒高校を卒業、同級生(同じクラス)にはプロ野球広島カープの監督であった古場竹識氏がいたそうで、当時はよく熊本での広島カープ優勝の祝賀会に行っていたことを覚えています。母は福岡県朝倉の出身で、なぜあんな山奥に嫁いだのかは覚えていないとのことでしたが、見合いかなんかで嫁いだとのことでした。父は私が生まれた時は地元の造り酒屋陽気酒造に勤務しておりました。地元には陽気酒造と通潤酒造と2軒の造り酒屋があり、通潤のほうは今も残っておりますが、陽気酒造はなくなっております。町役場の道もあつたみたいですが、当時は公務員の給料は大変安く、社長から直接誘われたこともあり、初任給につられ入社したそうですが、後年においては田舎で生活するなら公務員がよかったと嘆いておりました。

父の実家は矢部町で西田商店という運送、プロパンガス、小売りの酒屋を営んでおり、父は末っ子で2歳年上の兄が家業をついでおりました。熊本商業を卒業しており同級生にはご存知の方は少ないかと思いますが読売ジャイアンツにいた高倉照幸選手がいたそうです。その上に姉4人、私にとっては叔母に当たりますが、第一高校や熊商、地元の矢部農学校と当時としては中卒も多い中全員を高校に通わせており、矢部という山の中に育ちながら、祖父母はそこそこに教育熱心な家庭だったんじゃないかということを知っています。

私の兄弟は2つ下に妹、4つ下に弟がいましたが弟は残念ながら私が小学校2年生の時3歳で他界し、今は妹と二人兄弟です。妹は福岡の大学を卒業し薬剤師となって熊本市内の病院で勤務してましたが、40歳近くまで独身で両親も一生独身と心配しておりましたが、資格もあることで何とかなるだろうと結婚を諦めておりましたら、突然熊本市内で弁護士をしている人に嫁ぎまして、今は長男長女の母として専業主婦をしております。

私の学生生活ですが、地元の浜町保育園、浜町小学校、浜町中学校を卒業し、これまた地元の矢部高校に入学しました。幼少期の記憶はあまりないのですが、従兄弟が多く、特におじのところに長男とは同級生であり、兄弟のように育ち、近所の子供たちと空き地で草野球やかくれんぼ、缶蹴り、田んぼでカエルを捕まえたりして遊んでいたのを覚えています。小学校4年生の時より少年野球チームに所属し、野球漬けの毎日でした。

小学校のころの大きな出来事といえば、父が勤め先の造り酒屋を辞め、実家の家業である酒屋を始めたことです。当時造り酒屋はどれも経営難で、父の話だと一応専務という肩書であったということですが給料も安く将来は厳しくなると予想したことと叔父も運送業とプロパンガスの販売が主力になり、酒屋までは手が回らないということで父が後を継ぐことにしたとのことでした。

当時は酒屋も免許制で比較的価格競争も少なく、今ほど過疎かも進んでなかったことから業務店や建設業、農家を中心に固定客があり、盆正月などは大変忙しくバイト生も常に2、3人おり、夜の12時くらいまでは普通に店を開けていました。





先ほど述べましたが、開店当初に弟が病気になったこともあり、母が看病で熊本市内の病院についており、今では完全に就労に対する少年虐待でアウトと思われますが、小学校 2 年生の時から近所の小料理屋やスナック等にビールやウィスキー等を夜 9 時くらいまで配達していました。当時の感覚としては働かされている感覚はなく、行った先々でお菓子をくれたりジュースや時には焼き鳥やぎょうざも食べさせてもらったりしまして、大変楽しかった思い出となっております。

クラブ活動は中学校までは小学校から始めた野球をやり、浜町中学校ではキャプテンを務め、守備はセンターをやっていました。高校生の時も野球部に所属し、肩が強かったことからキャッチャーをやっていましたが、肩を壊し 1 年生で退部し、帰宅部でした。

矢部高校のことを話しておきますと、当時は普通科 2 クラスに農業科、林業科、商業科、生活科、家政科と書く 1 クラスあり、ほとんどが地元の学生で、私は普通科に進学しました。

当時は校区制があり、熊本市内の公立高校には郡部全体で 4% 程度の入学枠となっており一部の同級生は中学時代より熊本市内に転入し、進学校に行っていましたが、大半は

地元に残り、小中高と大半が同じ顔ぶれでした。当時は矢部高校は陸上部が強く、私の一つ上の学年は高校駅伝全国大会で 8 位に入賞しました。今では少子化、過疎化の影響で学生数も半分に落ち込んでおり、さびしい気持ちになります。中学校も統合され母校の名前はなくなりました。



高校生活は野球部を辞めたこともあり、家業のバイトの他はぶらぶら友人たちと遊んでいましたが、一応普通科なので 3 年生の時進学をどうするかという話になり、両親としては家業を継ぐことを期待し、私自身もなんとなく周りが就職したり家業を継いだりしていたこともあり、適当な酒の卸かなんかに就職し、いずれは酒屋の跡継ぎになるものと思っていました。私はテレビを見るのが好きで、いまでもそうなのですが当時も暇なときはよくテレビを見ていました。当時週末の午前中だったかと思いますが、プロポーズ大作戦という大学生が団体がゲームをしながらカップルが成立するという番組があり、とても楽しそうでした。このまま卒業して就職したらこういう世界を一生知らずに社会に出てしまうんだと思うと何かとても寂しい気になり、このままじゃいけない、大学に行こう、それも地元の大学じゃだめだ、東京の大学だと思い立ち、高校 3 年生の夏に大学に行きたいと父に相談しました。当然何を言っているんだ的な感じで話は進みましたが、何とか説得して大学に行くことを認めてもらいました。もともと成績は高校で中ぐらいよりちょっと上でしたが、勉強したせいで 90 人中 10 番くらいになりました。とはいえ普通科の 8 割は就職、残りも専門学校等で 1、2 年に一人か二人熊大に通るレベルでしたので、プロポーズ大作戦に出てくるような大学への進学した先輩はいませんでした。

私自身本気でそこまで目指したわけではなかったのですが、今まであまり勉強したこともなく、とにかく浪人をしようと決意、親は通る大学でいいじゃないかと相当反対をされましたが、何とか熊大を目指すという建前で浪人をしました。野球部の監督だった先生が退部後もずっと気にかけてくれており、浪人するんだったら福岡の親不孝通りに水城学園という予備校があるので、せっかくならそこに行けということになり、両親を説得してくれ親元を離れ、と言いますか地元で予備校はなく、熊本市か福岡市の違いでしたが予備校生活に突入しました。

山の中から熊本市を飛び越えいきなり福岡市へ行ったこともあり、知り合いが全くいない寂しさよりも都会の寮生活

が楽しく、予備校の充実した生活が始まりました。予備校の図書館に行くとみんなまじめに参考書を解いており、まともな受験勉強をしたことのない私としては大変新鮮で、当時の受験生だったら誰もが知っているような英語の参考書にも、感動してどこに売ってあると聞きだし本屋に買いに行ったことを覚えています。何せ高校三年生最後の生物の授業において、実験で大豆から豆腐を作ったり、科学の授業では世界の美しい景色のスライドショーを見てましたので予備校における授業や経験がとても素晴らしく、またいい友人にも恵まれ、ここにずっといてもいいやというくらい楽しい予備校生活だったことを思い出しました。

特に予備校の女性に一目ぼれをし、いつの間にか目標が熊大からその子の目標である九州大学へ志望校が変わっていました。当然そういう恋はうまくいくはずもなく、受験生にとって一番大事な秋口に振られることになり、と言っても付き合ったわけではないのですが、傷心の秋を迎えておりました。ただし共通一次試験では九大を目指したおかげもあり何とか熊大の目途は立ち、高校の先生も両親も安心したのもつかの間、やっぱり九大を受けると意地を張り、当然のごとく不合格、2浪も覚悟してましたが、何とか引っかけた明治大学商学部に入ることとなりました。意外だったのは父が明治大学に合格したことを非常に喜び、高校の先生方も矢部高校からの六大学は確か過去にいないということから大変喜んでくれ事なきを得ました。大学生生活も大変楽しかったのですが、青春時代の思い出として割愛し、社会人生活へと進みたいと思います。



就職活動の中で時はバブル時代、超売り手市場の中、私は海外に行ける仕事を探し、JTB に内定をもらいました。しかし両親は地元に戻れと希望しており、やむなく地元企業に帰ることとなり、肥後銀行に就職しました。今でもそうですが銀行という固いイメージの企業は好きになれなく、東京に当時彼女を東京に残していたこともあり、3年したら東京に戻ろうと考えていました。結局今のかみさんと初任店である御船支店で出会い、最初の転勤地である長崎で結婚し今に至りました。

初任店は御船支店に4年間、次が長崎支店に4年、その次が熊大に近くの子飼橋支店に2年半、次が本店営業部融資1課という法人担当部署に5年、次に福岡支店4年、次に東京支店3年、次が融資部(審査部門)で1年半、その後本店営業部にまた戻り2年、そして前任の大分支店で支店長になり2年9か月、今年の4月から玉名支店であり、銀行員生活の半分は県外支店であり、転勤だけでなく転居の多い生活でした。

トピックとしては最初の転勤先である長崎支店で着任二年後に結婚しました。それと長崎においては前任の玉名支店長で、現在マルエイの吉田常務に出会いました。当時吉田常務は30歳ちょい過ぎでしたが、仕事以外のいろんなことを教えていただきました。仕事終わりにはよく長崎思案橋を何往復も声掛けの訓練をしましたし、朝夕の通勤時は社宅から支店までの間約8キロを原付バイクでよく競争して通勤してました(渋滞の中ルートがいくつかあり、どのルートが早く着くか)。吉田先輩は当時すでに結婚されていましたが、とにかく元気で仕事以外のことを本当にいろいろと教えていただき感謝しておりますし、銀行員生活で最後の独身生活を楽しく過ごせたのは吉田先輩のおかげであり大変感謝しております。(本日は欠席で残念です)

また長崎においては長女彩夏が誕生、父親になりました。今は熊本大学工学部の4年生で今般就職が決まり、来春には熊本を離れる予定です。次女は長女が生まれた2年後の子飼橋支店時代に生まれ、現在は東京外国語

大学国際社会学部トルコ学科 2 年に在籍しており先般トルコの短期留学から帰ってきました。我々世代以上の男性においてはトルコに行っているというと何か違和感を感じますが私だけでしょうか。しょうもないことを言っているのかみさんや娘に怒られています。もう話が限界なので、東京支店時代の話で終わりたいと思います。

私は今から約 9 年前に東京支店の次長として赴任しました。前任の福岡支店に家族を帯同していたこともあり、東京にも家族で赴任しました。長女が中学 1 年の 2 学期、次女が小学校 5 年生の 2 学期からとなりました。社宅は世田谷の豪徳寺という今では高級住宅街の一角にあり、12 世帯の 3DK アパートでして、住環境としては最高の場所でした。おまけに母校である明治大学のすぐ近くであり、学生時代に住んでいたアパートまでも徒歩 10 分程度と青春時代の思い出の地でありました。

東京支店時代の思い出もたくさんあるのですが大きく分けると 2 つあり、一つは東京の京橋にある旧店舗を日本橋の現在あるコレド室町というビルの 17 階に移転させたこと、その 3 か月後に東北大震災があり、帰宅難民になったり原発停止の影響による節電下における営業継続の大変さを経験したことです。

震災の日のことをお話しますと、実は私は休暇をとっており着任後 2 年経過しもうすぐ転勤の可能性が高いということで両親を熊本から呼び寄せ、はとバスによる東京見物をしておりました。はとバスの発着場所が東京丸の内の丸ビルであり、その地下駐車場に自家用車をとめており、見学が終わり駐車場へ向かうビルの中で地震が発生しました。



突然地響きが始まり、大きく揺れ始めバーンというワイヤーか何かの切れる音がしました。これはまずいとすぐに両親を連れビルの外に出ようとしたのですが、当時建設中であつた日本郵政のビル、キッテビルの屋上の大型クレーンがぐるぐると回っており、20階以上の場所からクレーンが落ちてきた時の衝撃を考えるとビルの中にいたほうが安全だと考え戻りました。

揺れは 2, 30 秒で収まりましたが余震が続いており、またビルの大型モニターではお台場のガスタンクが転がっている風景が映し出され、最初は東京震災と思っていました。まずは東京支店に電話をしなればと思い携帯電話を掛けましたが、全くつながらない状態でした。とりあえず、両親を世田谷の社宅に連れて帰ろうと決め、駐車場に行きましたが、地震の影響で車を出すことができないとのことで困り果てたところに、瞬間的に今なら出せるというアナウンスが入り、すぐに脱出しました。しかしすぐに大きな余震があり、車を皇居前の路肩に寄せましたが、当時丸の内エリアは大型再開発の真っ最中であり、大型トレーラーの H 形鋼の柱が今にも降りかかってきそうで生きた心地がしませんでした。その後車中内テレビで震災が東北地方であることを知り、通常であれば 1 時間かからない距離を 4 時間かけ社宅まで両親を連れて帰りました。

その時さすがだなと思したのは、丸の内をはじめ各ビルの社員、OL がヘルメットを全員被り避難していたことでした。今は当行にも全店備え付けてありますが、当時はありませんでした。社宅に帰ると家族は全員無事でしたが、東京支店には連絡が取れない状況でしたので、車中内テレビで公衆電話ならつながるという情報を知り、近くの公衆電話に走り電話を掛けました。



東京支店では全員無事の確認は取れましたが、女子行員の一人が町田に取り残されており、バスも電車もタクシーも使えない状況ということで今から支店長の運転手を向かわせるということでした。世田谷まで私で4時間かかっており、町田は世田谷を通っていく路線にあることから私が迎えに行くことになりました。当時は今後どういう状況になるのかがわからない状況でもあり、家族と離れるのは不安でしたが女子行員の不安を考えるとすぐに行くことに決めました。

結局20キロくらいの距離を大渋滞の中6時間くらいかけ迎えに行き、駅に到着したのは夜12時ころでした。歩いて帰る帰宅難民の列が私の車を抜いていき、結局歩いて帰ったほうが早かったのではと内心思いましたが、当時はどうしようもありませんでした。その後、東京高円寺の寮まで女子行員を送り届けましたが、最終的に自分が社宅に帰り着いたのは、朝方6時を回っていました。12時間以上車に乗り続けましたので大変疲れました。当日は東京支店には就職内定者が集まっており、彼らは結局朝方まで支店で過ごし、次の日の電車で帰ったそうです。

ある行員は渉外先の池袋から6時間かけて歩いて帰り、途中であまりにも寒いので防寒着を買ったということでした。のちに行員皆で検証した結果、帰宅方法で一番賢かったのはドン・キホーテ等の量販店で安い自転車を買い自宅まで帰った人か、翌日までオフィスで過ごし、翌日の電車で帰宅した人になりました。地震発生時は東京支店のビルも相当揺れ生きた心地はしなかったということですが、三井不動産の所有する最新式の免震構造であったことからあえて揺れるように作ってあり、それも余震のたびにアナウンスで今から何秒後に大きな揺れが来ますというアナウンスがあり、大変参りました。ただし、旧店舗においてはガラス窓が全壊し、地震時間が銀行のシャッターが降りる2時50分だったことを考えれば、お客様や行員に被害があった可能性もあり、震災前の2ヶ月という絶妙のタイミングで移転しており、また熊本地震の時も、震災1年前に本店の建て替えを行っており、当行は本当に運がよかったということを実感しました。

なんのお役にも立たない自分の経験談で申し訳なく思っていますが、おととい堀本さんに要請を受け、しかも夏休みで家族旅行中に、さらに今日は一人なので30分話すよう言われましたので、何分準備不足であり、たいして中身の無い話でしたがご容赦ください。ご清聴ありがとうございました。

